

鳴子潟沼鑛泥を利用せる鑛泥纏包法

今井秀雄 楠田敏也

IMAI, H. and KUSIDA, T.: Über die Fangopackung mit den Schlamm aus Katanuma-Sumpf.

I 緒 言

鑛泥療法とはシュラム (Schlamm) 或はモール (Moor) を利用する一種の鑛泉療法である。

シュラムは伊太利語にてフアンゴ (Fango) とも呼び鑛泉に永く浸漬された鑛泥にて壊敗した植物の有機性物質を混入することの少いのを原則とする、モールは空氣と絶縁された濕地の中に埋没されて居た植物その他の有機物が破壊分解して發生した暗褐色の泥炭土である。

これ等を以て身體の一部を包み局所的に應用するのが鑛泥纏包法にして、全身的に應用する場合には之をシュラム浴 (Schlammbad) 或はモール浴 (Moorbad) と稱する。

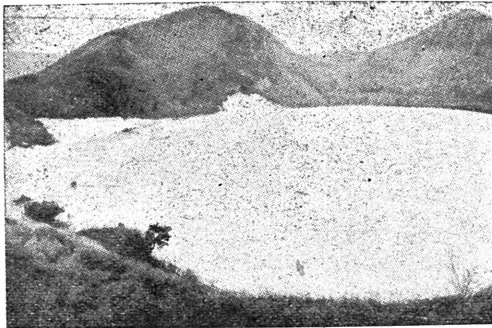
鑛泥療法は歐羅巴に於ては既に百餘年前より行はれて居たにも拘らず、火山國溫泉國である我が國にては漸く近年に至りて試みられ九大溫泉研究所の北村氏に依る纏包法に關する研究と北大西川、三上、山田氏等に依る泥炭浴に關する研究とを見るに過ぎない。

吾々は仙臺第一陸軍病院臨時鳴子分院に於て今事變の戰傷病將兵の治療を擔當するに際し、鳴子町潟沼の鑛泥を利用して纏包法を試み難治のロイマチス等に著效を認めたる經驗を得たるを以て茲に報告する次第である。

II 潟沼鑛泥に就いて

潟沼は宮城縣玉造郡鳴子町南方海拔 446 米の山上にあり、周圍 2 軒、深さ 270 米に及ぶ舊噴火口跡に水を湛えた沼にして、胡桃岳、尾ヶ岳、鳥谷森等の峯に圍まれ岩片錯落として山影樹映倒に落ち一碧明鏡を磨するが如き景勝の地である。

沼水は酸度高き點に於て世界一 (吉村信吉博士) と稱せられ沼底には火山活動の餘勢として硫黃及瓦斯等噴出し居り嚴冬と雖も氷結することなし、附近には人取地獄と呼んで有



鳴子湯沼

硫	黄	84.22%
二酸化珪素		8.75%
酸化第二鉄		0.36%
酸化アルミニウム		1.06%

毒瓦斯を噴出する所や修羅洞と稱して常に水蒸氣を噴出して居る場所がある。

現在沼底の泥土を採取乾燥し製煉所に送りて硫黄を取つて居るのであるが吾々が纏包法に利用したのはこの湯沼の鑛泥である。而して本鑛泥は硫黄シユラムに屬すべきものにして硫黄を多く含んで居る部分の分析表は次の如くである。

酸化カルシウム	0.08%
酸化マグネシウム	0.09%
砒素	極微量

然し乍ら吾々が實際使用し得るものは硫黄の含有量が遙かに少い部分である。

III 鑛泥纏包法の醫療的特徴及實施法

鑛泥纏包法は醫療的に次の如き特徴を有して居る。

- (1) 熱容量が大にして熱傳導が悪いため容易に冷却せず、長時間に涉つて溫熱作用を働かせ得る。
- (2) 比熱が少きため水を以て行ふよりも局所に對して適用の初期から高温を利用せしめ得る。
- (3) 鑛泥中に含有される特殊物質の特殊作用がある。
- (4) 纏包に依り機械的壓迫が加へられマツサージの如き働きがある。
- (5) 壞敗した有機物質の混入することが無いため皮膚を刺戟することがない。
- (6) 衰弱せる患者又は、心臟障礙ある患者にして浴泉不能の者にも施行し得る。
- (7) 鑛泥は數回使用しても效力が消失しない。

以上の如き長所を具備して居るので慢性炎症部の疼痛を緩和し、血液及淋巴流を促進せしめて炎症産物の吸収を促すのである。

斯くの如き見地より吾々は鑛泥纏包法を次の如く實施して居る。

湯沼底より採取し來りたる鑛泥を土釜に入れ(酸性度高きため鐵容器は使用に堪えず)熱湯を加へて粥泥狀となし、攪拌し乍ら炭火を以て50°位まで加熱する。之を3種の厚さに布上に擴げ45°に冷却したる頃を待ち患部を可及的廣範圍に直接纏包する。更にその上から

防水布と毛布とを以て包み30分間静臥せしむ。纏包療法終了後は鑛泥を洗ひ落し乾燥せし手拭で軽く摩擦せしむるか或ひはそのまま浴泉せしむ。その後は病床上にて毛布を患部に掛け2時間位静臥せしむる様にする。

以上の療法を毎日1回づつ症状の治癒するまで繼續實施するのである。

IV 治療成績

吾々が主として慢性關節ロイマチスその他の疾患42例に實施せし鑛泥纏包法の治療成績を一括するに第1第2表の如くである。

一般に効果を認め得るものは治療開始後1週間にして既に快方に赴き、最も急速に治癒したる者にありては10日目にして全く諸症状の消失を見たるものありたり。

吾々の分院に於て滿1ヶ年間に温泉治療を行つた患者は總數〇〇〇〇名に達するが、その中に慢性關節ロイマチス患者〇〇名ありて4.5%を占む。その〇〇名の中比較的輕症者36名は鑛泥纏包法を施行せず單に温泉療法、超短波療法及電氣療法のみに依つたのであるがそれ等の成績と鑛泥纏包法を施行した26名の成績とを比較するに第3表の如く、比較的難治の患者にも拘らず纏包法を行ひたる26名に於ては遙かに良好なる治療成績を納め得た。吾々の經驗に依れば本法は慢性關節ロイマチスに特に有效なるものの如く思惟せらる。

慢性漿液性關節炎に於ては水腫型に屬するものに對して著效を認め、治癒したる2名は各れも之に屬す、然し乍ら滲出液僅少にして運動障礙を主症状とせるものには著しき効果を期待し難い。

本鑛泥は硫黃を主成分とせる所謂硫黃 シュラム に屬するものにて其の特色として神經麻痺の恢復に有效なることは想像され、顔面神經麻痺患者に試みた經驗に於ても既に10ヶ月を經過した陳舊性の患者にも相當の効果を認めた。

副作用としては何等認む可きものなく殊に警戒して居た皮膚刺戟作用も全く杞憂に過ぎなかつた。

以上の如く吾々の經驗例は僅少ではあるが豫期以上の好成績を納め得て、將來更に進んで他の諸疾患にも應用せんとして居る次第である。

V 結 語

吾々は鳴子温泉濁沼の鑛泥を利用して慢性關節ロイマチスその他二三の疾患患者42名に鑛泥纏包法を施行し良好なる治療成績を納め得た。

第1表

番號	氏名	病名	部位	難澁期間	症 狀	纏包法 實施回数	效果
1	阿 ○ 信 ○	慢性關節ロイマチス	右足	3ヶ月	疼 痛、運 動 障 碍	18	治癒
2	佐 ○ 勇 ○	全 上	左膝	6ヶ月	全 上	15	輕快
3	阿 ○ 宗 ○ 郎	全 上	左膝	1ヶ月	疼 痛、 腫 脹	30	著效
4	生 ○ 目 ○	全 上	兩膝	4ヶ月	全 上	18	治癒
5	高 ○ 武 ○	全 上	兩膝	4ヶ月	疼 痛、運 動 障 碍	18	治癒
6	阿 ○ 庄 ○	全 上	左膝	2ヶ月	全 上	10	治癒
7	橋 ○ 善 ○	全 上	左膝	4ヶ月	全 上	15	治癒
8	菊 ○ 寅 ○	全 上	右足右腕	2ヶ月	全 上	15	著效
9	高 ○ 彌 ○ 郎	全 上	右膝	5ヶ月	全 上	30	治癒
10	荒 ○ 政 ○	全 上	左膝	3ヶ月	全 上	34	輕快
11	菅 ○ 太 ○	全 上	右膝	6ヶ月	全 上	16	無效
12	田 ○ 長 ○ 郎	全 上	兩足兩膝	3ヶ月	疼痛、腫脹、運動障碍	30	輕快
13	川 ○ 喜 ○ 郎	全 上	左足左膝	4ヶ月	疼 痛、運 動 障 碍	52	治癒
14	山 ○ 利 ○ 郎	全 上	左膝	5ヶ月	全 上	27	治癒
15	更 ○ 一 ○	全 上	左膝	5ヶ月	全 上	42	治癒
16	横 ○ 虎 ○ 郎	全 上	左足	7ヶ月	全 上	38	治癒
17	山 ○ 充 ○	全 上	右膝右腕	3ヶ月	全 上	17	無效
18	阿 ○ 勘 ○ 亟	全 上	兩膝	6ヶ月	全 上	70	無效
19	町 ○ 忠 ○	全 上	兩膝	2ヶ月	疼痛、腫脹、運動障碍	17	治癒
20	大 ○ 富 ○ 郎	全 上	左膝	4ヶ月	全 上	67	著效
21	長 ○ 部 ○ 作	全 上	左膝	3ヶ月	疼 痛、運 動 障 碍	25	治癒
22	我 ○ 正 ○	全 上	右膝	2ヶ月	疼 痛	60	治癒
23	深 ○ 正 ○	全 上	左足	2ヶ月	全 上	30	著效
24	後 ○ 嘉 ○	全 上	左足	4ヶ月	疼 痛、運 動 障 碍	66	治癒
25	齊 ○ 一 ○	全 上	兩足兩膝	7ヶ月	全 上	52	輕快
26	影 ○ 正 ○	全 上	左膝	5ヶ月	全 上	10	治癒
27	鹽 ○ 義 ○	左下腿切創後機能障碍	左下腿	2ヶ月	腫脹 疼痛、運動障碍	29	著效
28	西 ○ 正 ○	右膝關節部挫傷	右膝	3ヶ月	疼 痛、運 動 障 碍	39	治癒
29	戸 ○ 文 ○	右 胛 部 肩 挫 傷	右肩	7ヶ月	全 上	35	著效
30	佐 ○ 秀 ○	右 足 趾 部 挫 傷	右足	4ヶ月	全 上	30	輕快
31	望 ○ 安 ○ 郎	左膝關節部挫傷	左膝	16日	腫脹、壓痛、運動障碍	44	治癒
32	小 ○ 義 ○	左下腿骨折貫通銃創	左下腿	12ヶ月	疼 痛、運 動 障 碍	30	無效
33	菅 ○ 太 ○ 治	右 撓 骨 下 端 骨 折	左腕	5ヶ月	腫 脹、疼 痛	47	治癒
34	本 ○ 國 ○	右尺骨莖狀突起骨折	右腕	1ヶ月	腫脹、疼痛、運動障碍	30	治癒
35	佐 ○ 登 ○	右慢性漿液性膝關節炎	右膝	7ヶ月	水腫形成、運動障碍	41	治癒
36	館 ○ 正 ○	全 上	右膝	2ヶ月	水 腫 形 成、疼 痛	55	治癒
37	町 ○ 清 ○	全 上	右膝	1ヶ月	疼痛、運動障碍、腫脹	32	無效
38	片 ○ 重 ○	全 上	右膝	5ヶ月	全 上	30	輕快
39	高 ○ 豐 ○ 郎	右慢性漿液性足關節炎	右足	3ヶ月	疼痛、腫脹、運動障碍	49	輕快
40	田 ○ 榮 ○	左 額 面 神 經 麻 痺	左額	10ヶ月	運動麻痺、額皺消失	43	輕快
41	尾 ○ 盛 ○	全 上	左額	2ヶ月	運動麻痺、鼻唇溝消失	58	治癒
42	小 ○ 啓 ○	左淋毒性腦關節炎	左膝	5ヶ月	疼 痛、運 動 障 碍	20	無效

第2表

疾病區分	患者數	平均難澁期間	平均實回數	治癒	著效	輕快	無效
慢性關節ロイマチス	26名	114日	31.6回	15名	4名	4名	3名
外傷	8名	122日	35.5回	4名	2名	1名	1名
慢性漿液性關節炎	5名	108日	41.4回	2名	0	2名	1名
顔面神經麻痺	2名	183日	50.1回	1名	0	1名	0
淋疾性關節炎	1名	150日	20.0回	0	0	0	1名
計	42名	119日	31.5回	22名	6名	8名	6名

第3表

療 法 別	全 數	治 癒	著 效	輕 快	無 效
纏包法實施患者	26名	15名(57%)	4名(16%)	4名(16%)	3名(11%)
纏包法不實施患者	36名	7名(19%)	14名(39%)	8名(23%)	7名(19%)

本鑛泥は所謂硫黄シユラムに屬するものにして疼痛及び神經麻痺等に施す鑛泥纏包法には適當なるものと思考される。

本稿の御校閲を辱ふせる 恩師慶大茂木教授並藤浪教授に深謝し併せて御指導を賜りたる宮崎病院長、菅原分院長殿に感謝す。 (仙臺第一陸軍病院臨時鳴子分院)

文 獻

- 1) 北村大藏、泥浴及泥土纏絡法、實踐醫理學、5年、2號、117頁、3號、243頁、(昭和10年3月、5月)
- 2) 西川義方、フアンゴーとモール、實驗醫報、257號、658頁(昭和11年3月) 3) 西川義英、三上二郎、山田淳、泥炭の醫療的利用法、北海道醫學雜誌15週年紀念號、2857頁(昭和12年10月)
- 4) 高安慎一、鑛泥療法小話、温泉、10卷、3號、92頁(昭和14年3月)

Résumé

Wir haben eine Fangopackungstherapie mit den Schlamm aus den Katanuma-Sumpf in der Brunnenbadgegend Naruko an schwer heilbaren rheumatischen Gelenkentzündungen, traumatischen Schmerzen, verschiedenen Lähmungen usw. mit merkwürdigen Wirkungen ausgeführt.

Dieser Schlamm ist ein Schwefelschlamm, scheint daher für die Fangopackung bei verschiedenen Schmerzen und Lähmungen zweckmässig zu sein.